

鹿児島県立与論高等学校

# 校長通信

第37号(令和5年7月20日/校長 甲斐 修)



校訓「好学 創造 親和 不屈」

鹿児島県大島郡与論町茶花1234番地1



電話 (0997) 97-2064

FAX (0997) 97-2844



## 学習評価を学習改善に生かす学びへ

本校では令和3年度から、各教科が単元毎に学習評価を行っています。1学期通知表の各教科の欄には、学期内に学習した単元毎の学習評価を総括した評点に加え、観点別学習状況の評価を記載しています。これは、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点について、各教科がそれぞれA(十分満足できる)、B(おおむね満足できる)、C(努力を要する)のいずれかを評価として記載したものです。

各教科が単元のはじめに配布する単元シラバスには、その単元で育成する資質・能力(評価規準)が観点



別に示されています。したがって、生徒のみなさんは、1学期に学んだ各教科の単元シラバスを再確認することで、自分の学習のどの部分を改善すればよいのかを把握することができます。不明な点は、各教科の先生に質問してください。

ところで、本校の通知表には「順位」の欄がありません。学習評価とは本来、学習の過程で学び手がどのように向上したのかを見取り、支援するためのものであり、序列をつけることが目的ではないからです。

これからの学校教育に求められるのは、生徒一人一人のよさを引き出し、生徒自身も気付いていないよさに気付かせるとともに、それまでもっていなかった資質・能力を獲得できるよう、指導者が寄り添い、支援していくための学習評価です。

本校は今後も、学習指導要領の理念に基づき、学習指導と学習評価の工夫・改善に努めていきます。

## 第1回学校関係者評価委員会

7月12日に学校関係者評価委員会を行いました。この委員会は、学校が保護者や地域住民等の意向を把握し、学校評価の充実を図るとともに、これを学校運営に反映させ、開かれた学校づくりや特色ある教育活動の推進に資することを目的としています。

今年度1回目の今回は、授業参観のあと、校長が学校経営方針等の説明を、各学年主任が目標と具体策について説明を行いました。委員からは、教育活動に係る支援や生徒の主体性を育成する取組等について、質問や御意見をいただきました。(裏面に「第1回学校関係者委員会(報告)」)



## 与論翔励会から「翔励金」を頂きました

与論翔励会は、与論教育の振興に貢献することを目的とする有志の会で、本校教育の更なる向上、発展のために、毎年温かい御支援を頂いています。

7月7日に与論翔励会副会長から今年度の翔励金が授与されました。頂いた翔励金は、各種検定等の受検料補助など、生徒の進路目標の実現や教育活動の充実のために大切にに使わせていただきます。

### 続・PC端末で授業が変わる③(理科)

デジタル社会を生きる高校生にとって今やPC端末は、鉛筆やノートと並ぶマストアイテムです。県教育委員会は令和4年度から、県立高校1年生全員にPC端末を1年間貸与し、学習場面のICT活用を推進しています。PC端末を活用した各教科等の工夫を紹介する本コーナー。第3回は理科です。

1年生の「科学と人間生活」の授業。この日は、身の回りの食品からDNAを抽出する実験と観察です。

生徒たちはまず共有ドライブからレポート様式をダウンロード。その後、授業者は本時の目的と実験の手順を説明します。

今回使う食品はバナナと鶏のレバー。6つの班のうち3つがバナナ、残りの3つがレバーで実験します。食品を潰したあと、食塩水と台所用洗剤で作った抽出液を加えてよく混ぜ、浮遊物が見えてきたらガラス棒ですくい上げ、ろ紙でろ過します。バナナ班、レバー班それぞれ3つは、塩化ナトリウムの量を調整し食塩水の濃度を「薄め」「中程度」「濃いめ」で実験。濃度がDNAの抽出にどのように影響するのかも観察のポイントです。

実験の過程は記録係の生徒がPC端末で撮影し、共有ドライブに保存。生徒全員がすべての班の写真を共有し、食品や食塩水の濃度の違いでどのようなことが言えるのかを考察します。授業者はレポートをオンラインで提出するよう指示。生徒たちのPC端末の操作も手慣れた様子でした。



# 令和5年度 第1回学校関係者評価委員会（報告）

鹿児島県立与論高等学校

- 1 日 時 令和5年7月12日(水) 午後2時30分～4時30分
- 2 場 所 本校教育相談室
- 3 出席者 (1) 学校関係者評価委員(3人)  
与論中学校長, 与論町観光協会長, 学習塾まなび島塾長  
(2) 本校職員(10人)  
校長, 教頭, 事務長  
4 部主任(教務, 進路指導, 生徒指導, 保健), 1～3学年主任
- 4 日程等 (1) 委嘱状交付  
(2) 授業参観  
(3) 評価委員会(校長挨拶, 本年度の教育活動説明, 協議(意見交換, 要望等))

## 5 質疑応答・意見

- 毎年、生徒の声を反映した細やかな改善が見られる。学校の特色を生かした教育活動が盛んに行われる中、与論町からの支援・補助が他地域よりも少ないように感じる。保護者の金銭的な負担感はどのようであると思われるか。  
→ 昨年度の保護者の支出の例としては、2年進級時のタブレット端末(約10万円)がある。また、部活動の遠征については、県・学校(PTA)からの補助を合わせると約1万円あるが、各家庭の負担は県大会1回につき平均して2～3万円である。与論町海洋教育推進協議会の予算から、探究活動のための助成金が支出されているが、在学中の生徒に対して直接的な支援はそれ以外になく、保護者の負担感は否めない。現在、町からは高校卒業時に新生活応援支援金として5万円が給付される制度がある。
- 町からの助成は保護者・地域からの要望があって初めて検討されると思うが、現状では保護者からの要望・働きかけが少ないようである。
- 少子高齢化が進む中、高校存続について話し合うためのPTA等の組織はあるのか。  
→ 本校としては学校教育目標の達成のため、教育活動の確実な実施が最優先であり、高校存続のための特別な組織は設置されていない。現在できることとしては、本校のパンフレットをいくつかの県の機関に置いてもらい、与論高校の取組等を周知することのみである。
- 高校存続の問題は、行政・地域が連携した動きの中で、町議会等でも取り上げてもらう必要がある。町の中でも組織的な動きがないのが実情である。
- 与論高校の教育活動や授業に改善・工夫が毎年みられ、先生方の努力に感謝している。与論高校の先生方の住宅環境の改善はなされているのか。  
→ 築年数の長い住宅がほとんどで、まったく改修されていない。県としては今後新築はしないということであり、補修のみという方針である。
- 高校生になってそれぞれの成長が見られる。生徒を「小さな大人」と捉える考え方に共感を覚える。高校での主体的な学習活動・探究活動は、社会人としての訓練ともいえる。先日の高校説明会で、高校3年生が説明する場面があり、生徒に活躍・実践の場を与えることがそれぞれの自信をつける機会になっていると感じた。与論高校には今後も探究活動の充実をお願いしたい。
- 3学年主任から紹介された自己調整力のための「フォーサイト手帳」とはどのようなものか。  
→ スケジュール管理や単元テストの対策・計画を促すことなどのために持たせている。ビジネス手帳の高校生版といったもので、社会人になっても必要なマネジメント力の強化のために、一人一人に持たせるようにした。
- インターネットの利用状況はどうか。依存状況はないか。  
→ 現在調査データはないので、今後実施を検討したい。よく耳にするのはゲームに多くの時間を割いているということである。一方で、本校では学習の成果を時間量で測ることよりも、やるべきことを確実にこなし、各自の成長につながるような主体的な学習を進めることがより重要であると考えている。そのため、余暇として生まれた時間は、趣味や読書の時間とすることを推奨している。